

第2回 ポートアイランドスポーツセンター再整備検討有識者会議（議事録）

日時：令和3年8月12日（木曜）10時00分～11時30分

場所：神戸市役所1号館14階AV1会議室

●資料7ページ（再整備の基本方針について）

（委員）

- ・基本方針の3つの軸について、市民の健康増進の中に含まれると思うが、学校運動部が地域に移行していく動きがあるので、教育施設としての役割も示すべきではないか。
- ・大会を開催することも、学校教育の一翼を担うが、練習会などでも利用できるが良い。

（会長）

- ・中学校の部活動であるが、OECDの調査で日本は教員の労働時間が世界で一番長いという結果がでている。国、スポーツ庁は部活動を地域スポーツに移行するという方針を出しており、ここ2～3年で急激に変化がでてくると思う。
- ・部活動でも、週末はスポーツセンターに来て練習されるということががあるので、広く子供たちが利用できる環境も整えていただきたいと思います。

（委員）

- ・これからの施設にはSDGsの視点も取り入れていくという方向性を盛り込んだ方が良いのではないか。

●資料10ページ（再整備の方向性について）

（委員）

- ・スケートリンクの国際規格について、前回の会議でも申し上げたリンクフェンス、可動式マット導入のことも含まれているのか。これらの機能があれば、国際レベルの大会も開催可能となる。

（事務局）

- ・基本計画の段階で言及することは難しいかもしれないが、競技力向上につながるものについては、念頭におきながら整備計画を進めてまいりたいと考えている。

●資料11ページ（導入機能について）

（委員）

- ・可動床の最大水深が明記されていないが、3mということによいか。

(事務局)

- ・具体的な水深については、会議でのご意見も踏まえて検討していきたいと考えており、例えば競技面、一般利用の面でこれぐらいの水深であれば有効であるというようなご意見をいただきたい。

(委員)

- ・国内で水深3mのプールは、東京オリンピック・パラリンピックの会場である東京アクアティクスセンターなどがあるが、これからは水深3mが標準となってくる。国内一般プール・AA級の大会を誘致するというのであれば、水深3mを確保した方が良い。

(委員)

- ・最大水深についての話があったが、一番浅いところはどこまでと考えているか。尼崎のプールは飛込台のところまで高くなるという設計になっている。

(事務局)

- ・競技面と、現在は一般利用が限られているという面を考慮する必要がある。例えば、コースロープをはずして幼児も楽しめるような使い方まで含めて考えていきたい。幅広い利用ができる施設とすることで、3つの基本方針につながるものと考えている。具体的に何センチまで上げるかはこれからの検討であるが、スケートリンクに転換するため、プールサイドと同じレベル(水深0m)までは調整できるようにしたいと考えている。

(委員)

- ・50mプールを一般利用にも使うべく可動床にしていると考えてよいか。というのは、サブプールの固定床3mは非常に使いづらいと思う。夏季の限られた期間しか利用できない上、3mになると底に台を沈めて利用することもできないので、使える人がものすごく限られてしまう。稼働するだけでコストがかかるし、できるだけどのプールも高度に利用できるようにした方が良いのではないか。
- ・50mプールはあまり一般利用を想定せず、選手がいつでも利用できるようにし、25mプールを一般利用とするケースが非常に多い。50mプールを可動床で普段から使えるようにしているケースとしては、10レーンを短辺方向で使って、レーン数を増やして使うというかたちを見たことがある。

(事務局)

- ・サブプールは、メインプールで大会をする際のアップ用として利用される。メインプールを水深3mにした場合、サブプールもそれと同じ練習環境とすることができる。また、現在は飛込プールで水深5mであるが、それよりは容積が少なくすむ。

- ・サブプールは、アーティスティックスイミングや水球の練習で利用されているが、50mプールで一般利用を行い、競技者が使えない時間帯がある場合には、サブプールを競技用に利用していただけるという意味もある。サブプールは、大会時のアップ利用だけでなく、うまく競技者の方に使っていただき、利用の幅を広げたいと考えている。水深3mが良いのかは再度検討してまいりたい。

(委員)

- ・50mプールを一般利用するのはかなりチャレンジングなことと思うが、実態としてはどうか。

(委員)

- ・大会での利用は土日、その前後の月曜・金曜、夏休みであるが、平日はかなり空いている。競技者の練習は1～3レーンあれば足りる。水深を浅くすれば、一般の方がレジャー目的で利用できるし、学校の授業を専門の指導員に見てもらい、子供たちの泳力に合わせて水深を調整するという方法も考えられる。50mプールをこのようなかたちで使うのはこれからの流れではないかと思う。

(会長)

- ・プールについて、これからは小中学校も施設に来て利用する機会が増えることが予測される。飛込プールは今回の素案で廃止となっているが、ご意見はございますか。

(委員)

- ・前回の会議で、飛込プールについて、選手が少ないとは言え、公共施設の使命としてマイナー競技への支援はしていかなければならないのではないかと意見をさせていただいた。現状ほとんど使われていないということ、選手に限られること、選手は自分たちの練習場を持っており、ポートアイランドスポーツセンターはそこからは外れているということを踏まえると、仕方がないのかなと思う。ただし、飛込プールを設置しないということについては、経緯を示した方が良くと思う。

(委員)

- ・学校での利用が話題に出ているが、新たな施設の供用時期は、現状と同じ程度と考えてよいか。

(事務局)

- ・学校の授業日と関係があるかもしれないと思う。供用時期について具体的には申し上げられないが、現在プール・スケートリンクの転換におよそ2.5ヶ月かかっている。可動

床を導入することで、これを1ヶ月程度短縮できるものと見込んでおり、供用期間を拡大できると考えている。可動床を導入する目的の一つでもある。例えば、この時期まで供用できれば学校が利用しやすいとか、競技大会の面でも、もう少し早くスケートリンクを開設できれば大会を誘致できるということもあるので、各分野の皆様からご意見をいただきたい。

(委員)

- ・ 平面計画に関して、冬季はメインリンク・サブリンクと通年プールの上に仕切りがあるのか。

(事務局)

- ・ スケートリンクと通年プールは、温度管理も全く異なるため、両施設の間には諸室等を配置して別空間にすることを前提に考えている。

(会長)

- ・ 学校の児童生徒がポートアイランドスポーツセンターのプールで泳ぐと、水泳に対する意識も変わってくると思うし、指導レベルの高い講師に教えてもらうことで、より効果的になるのではないか。

(委員)

- ・ アイスホッケー競技は、ホッケー用のリンクフェンスが必ず必要になる。今のルールでは、リンク全面を高さ3.6m程度のガラスで囲む必要がある。
- ・ 国際試合や、国内トップクラスの大会を誘致するのであれば、バックヤードに選手・コーチ26名程度が入る控え室が少なくとも4室は必要になる。控え室にはそれぞれトイレとシャワーがついているのがベスト。また、レフェリーの控え室として5名分の部屋も必要である。他にも競技の進行を表示する電光掲示板など、色々な設備が必要である。
- ・ ユニバーサルデザインの観点で、パラアイスホッケーとあって、ソリに乗って行う競技があるが、日本はレベルが高く、北京パラリンピックにも出場が見込まれる。選手がソリに乗ったままベンチに戻れるように、リンクの高低差をなくして、さらに短辺方向に2mほど氷を延ばしてもらいたい。

(事務局)

- ・ 整備においては基本計画、基本設計、詳細設計というかたちで進めていくので、その時々で、ご意見をいただいた諸室やフェンスの話、実際のスケートリンクのサイズなどを検討していくことになる。
- ・ 今回のような施設は、2階構造にすることが難しく、平面である程度の機能を配置しな

ければならず、建築面積が大きくなる。新施設は、概ね20数%ほど建築面積を増やせるが、その中でいかにプールのレーン数を増やすか、諸室を増やすか、色々なご要望をいかに調整していくかということを考えているところである。色々なご意見をいただく中で、どうしても調整しなければならないものも生じてくる。

(委員)

- ・ ホッケー用のフェンスについて、フィギュアスケートの場合は、大会のときにははずさなければならない。スケートでも競技によって立場が異なるところがある。8年前に西宮のスケートリンクができたときもそのようなやりとりがあったので、改めてご相談させていただく。

(委員)

- ・ 導入機能に食堂が入っていないが、大会を運営する側としては、ポートアイランドは近隣に食事できる場所がなく、3日から4日に渡る大会運営において食事の世話が大変である。食事ができる設備が少しでもあれば、例えばホテルと連携をとって、食事ができる環境が整うと良い。大会運営という点では、食べることは非常に重要なので、偏った話かもしれないが、有識者会議のメンバーでもあるホテルとの協働といったことを実現できれば、大会を運営する側としては助かる。

(委員)

- ・ 大会を開催すると、選手を含めて観客席にたくさんの人が集まり、そこで会議をしたりする。プールの場合は、プールサイドから直接観客席に上がれる階段を設置することがあるが、設計者としてはグレーな部分で、消毒をして入ってきているのに、そこから観客席に入ってしまうと消毒をした意味があるのかとなってしまう。
- ・ 東京アクアティクスセンターは、プールサイドの延長でスタンド上になっているところと、通常の観客席がうまく切れているという機能がある。
- ・ 観客席を明確にゾーニングして、衛生的に担保されたエリアとそうでないエリアを分けるという計画を当初から考えていた方が良いと思う。

(会長)

- ・ ジムやスタジオというところが明記されていないがそれで良いか、ユニバーサルデザインというところで、このような機能が必要ではないかなど、ご意見いかがでしょうか。

(委員)

- ・ 市民の健康増進の観点で、メインプールの分割や可動床はすごく良いアイデアだと思うが、50mプールでは足がついたとしても、ターンすることやウォーキングのことを考え

ると、短辺方向でレーンを増やした方が良いのではないかと思った。
ただし、夏場はほぼ毎週末大会があり、大会時は水深を深くして50mプール用のレーンロープを張ることになる。大会がないときは短辺方向に泳ぐためのレーンロープを張り、その際の教室利用はどのような使い方をするのかと思う。プールの分割を含めたメインプールの一般利用のイメージ・方向性を教えていただきたい。

(事務局)

- ・まだ検討段階ではあるが、一般利用では足がついたとしても50m泳ぐというのは難しいかもしれない。短辺方向に泳ぐというのも一つの考え方であるし、横浜国際プールは50mプールの真ん中に幅2～3mの可動壁を配置しており、片方は25m、もう片方は22～23m、それぞれで水深を変えているというような運用をされている。このような使い方をすれば、夏場だけにはなるが、大会時は1つのプール、平日は2つのプールというかたちで運用できる。他都市では、このように可動壁を設けている例があり、必要性について検討しているところである。

(委員)

- ・そのような先進事例を参考にしていきたい。いざ施設が供用開始にされたときに、使いにくくて一般利用はできないということにならないようにしていきたい。

(会長)

- ・競技利用と一般利用をいかに柔軟に捉えて運用していくかは、一つ大きな課題であると思う。特に、ポートアイランドスポーツセンターを一般利用で泳いでみたい、歩いてみたいという人は多くいると思う。しあわせの村の25mプールは3つの目的にゾーニングをして上手く運用されていたが、その点について委員からご説明いただきたい。

(委員)

- ・しあわせの村は、今で言うところのインクルージョン、ノーマライゼーションという観点で見たときに、色々な利用者がおられ、オープン当初は苦情が多かった。利用者の話を伺いながら何曜日、どの時間帯にはどのような人が来るといったデータをとって、管理者としてプールの利用レーンの方法やマナーを提案した。専用利用については、障害者水泳は神戸市が最初に始めたところであるが、それに加えて近所に消防学校があり、大会前には利用があったことから、教室がない日に2レーンほど使ってもらうようにしていた。
- ・施設がオープンしてからデータをとって動向を把握していくのが良い。その結果を踏まえて、フレキシブルな対応ができる施設とするための情報を集めていく必要がある。ハコモノなので、完成してしまうとどうしようもない部分もあるが、その中でも対応でき

るようなシステムを導入すべき。施設は、市民全体が育てていくものなので、オープン後も対応できるような視点が必要である。

- ・ 障害者用の観客席を整備していただきたい。アジアの障害者水泳大会の誘致の可能性もあると思うので、そういったところに対応できるようにしていただきたい。また、そこに至るためのエレベーターも車椅子1台が入れるようなスペースではなく、大きなエレベーターが必要である。完成してからではどうしようもないところなので、ご意見をさせていただいた。

(会長)

- ・ 東京にナショナルトレーニングセンターがあるが、その中に共用施設として屋内トレーニングセンター・イーストが整備されており、パラ競技とオリ競技が利用できるようになっている。そのエレベーターはやはり大きくしている。また、見学者用の動線は、アスリートと別になるように設計されており、通路にはパラ競技の魅力を伝えるミュージアム機能も備えている。このようなスペースがあれば、神戸のスポーツも、色々なレガシーがあるので、展示をしていただくと見学者も増えて、児童・生徒も歴史を振り返ることができると思う。

(委員)

- ・ 飲食、ジム、トレーニング施設、ミュージアム機能などがあがっているが、実際の運営をどのようにしていくかということを考えたときに、今の計画は純粋なプールだけになっており、これだけでは運営は成り立たない。可動床を上手く使うとか、会員を獲得するといった内容も含まれているが、民間事業者は付加価値をつけたいと考える。しかしながら、自治体側が与条件として最初に示してしまうと、そこが得意な事業者が参入することになる。飲食やトレーニング、ミュージアム機能などは得意・不得意があるので、いっそのような機能をまとめて「民間提案施設」として計画に落とし込むのは難しいか。ある程度方向性を定めたほうが良いのか。

(事務局)

- ・ まずは基本計画を策定するところから、整備計画は始まると考えている。本日の資料でトレーニング室やスタジオなどについては、あえて記載していない。今お話があったように、事業者の提案において、この面積の制約の中でどのようにレイアウトを工夫すればスペースがとれるのか、そのスペースをとることによって他の面積が狭くなるのか、といったところを実際の利用例も踏まえながら提案を受けることになると思う。有識者会議には、競技団体、地元利用者、企業といった方々に集まっていただいております。施設を利用する立場として、プールだけでなく他の機能があればもっと利用しやすくなる、利用が増えるといったご意見をお聞きしたいと考え、明記をしなかった。

(委員)

- ・ 尼崎の施設を設計した際に色々な提案をしたが、思いのほか貸会議室の評判が良かった。知り合い同士でプールに来て泳いだ後に休憩できる場所がなく、ロビーで談笑するわけにもいかないの、そのような方々が会議室を借りて、ちょっとしたママ会を開くというような使い方があった。小さなお子様を連れているケース、子供と一緒にスクールを受けるといったケースもあり、簡易に借りられる場所があった方が良いと思う。子供のための遊具や施設、それを見守ることができるスペースなどもアイデアとしてはあるかもしれない。

(委員)

- ・ 基本計画の項目の中に事業手法がない。行政が直営で整備するという印象を受けるが、今はPFI等の手法があり、民間の知恵はすごいものがある。ハード以外に、これからの新しい生活様式に関しては、通信機能を含め、新しい技術がどんどん開発されている。そういったものをいち早く取り入れやすいということを考えると、行政主体ではなく、事業手法をしっかりと考えた方が良いと思う。

(委員)

- ・ プール、スケートリンクが競技においてどこまでの機能が必要かということは、よく理解できた。今現在、日本で、あるいは世界ではどこまでの施設が整備されているのか、可動床を導入しているところや、事業として成り立っているところ、我々が目標とする施設はどのようなものなのかというところを、実際に整備されている施設を例に示していただくと良いと思う。20~30年対応できるものを整備しないといけないので、こういったところは日本で初めて導入するとか、水泳・スケートの両競技に使うからどこかを我慢するのではなくて、どちらにとっても素晴らしい施設になると良い。

(委員)

- ・ 可動床を取り入れることによって、子供も高齢者も利用しやすくなることは大変ありがたい。このような改革が行われていることを、多くの方にPRをしていただき、利用者を増やしてもらいたい。

(委員)

- ・ 導入機能の中に体操場（スイミングスクールなどで出欠をとるような場所）がないので、そういった機能があれば良いと思う。また、最近ではコロナの影響で利用できなくなっているが、ジャグジーを導入している施設も多いが、現在の計画には含まれていないということでしょうか。
- ・ 通年プールが5レーンから8レーンになると便利になるが、可動床で高さを変えるのに

かかる時間や、レーンロープの張り替えにかかる時間など、ご見解をいただければと思う。

(事務局)

- ・ 競技に使用する諸室が大会開催時以外は空いているので、貸会議室にも利用できる。また、例えば鏡を設置すればスタジオとして利用できるし、体操場にも転用できると思う。そのようなことも念頭において、諸室の機能を検討したい。現状の敷地より大きくなるとはいえ、全ての機能を盛り込むことはできないので、有識者会議の意見を踏まえて検討してまいりたい。

(委員)

- ・ 多目的トイレや多目的更衣室が整備されているということだけで、ユニバーサルデザインにしているとは考えていただきたくない。多目的更衣室や多目的トイレがなくとも、一般の更衣室やトイレを車椅子の方が利用できるような考え方を持って整備していただけるとありがたい。案内サインも視覚障害、聴覚障害の方に対応した設計としてほしい。
- ・ グリーンアリーナ神戸で車椅子バスケットボールの大会を開催しているが、エレベーターは車椅子1台しか乗れず、職員が担がなければならないことがあるので、なるべく大きいものにしていただきたい。

(委員)

- ・ スケート競技ではそれぞれ備品を置く場所が必要になる。西宮のスケートリンクは、部室を確保していただいております、新施設でも各競技団体の備品を保管する部室などのスペースを設置してほしい。

(会長)

- ・ 福岡県が所管するアクション福岡という総合スポーツ施設があるが、ここには各競技団体の事務局が入っている。色々な国際大会が開催されるときに、空港から近くアクセスが良いので、まっさきに予約が埋まるような施設である。

(委員)

- ・ メインフロアの採暖室はスケート用のものか。

(事務局)

- ・ そうである。

(委員)

- ・夏場にプール用に設置されることがあるが、ほとんど使われていない。

(委員)

- ・施設全体のコスト最適化を図るうえで、設備面に関して事前に調べておくが良い。イメージとしては、プール施設は設備の塊であり、単純に空調・換気に関しても、大空間で湿度が充満する場所をどのように調湿するか、スケートも併用する施設となると設備設計にかなり高度なテクニックが必要になる。維持管理面では、プールの循環ろ過の装置をどのように考えるかということも重要である。消毒の機能に関しても選択肢があって、どれを選ぶかはケースバイケースである。基本計画の段階で、コストバランスを比較してどれを選択するのかをあらかじめ調査されておくが良い。